

鈴鹿の風

すずかのかぜ

VOL.
55

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院広報誌

スマホを使いこなす

院長 久留 聡



医学コラム
夏季筋セミナーについて
医療指導室からのお知らせ
地域医療連携室だより
名誉院長の部屋



スマホを使いこなす

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 くる 久留 さとし 聡

スマートフォン（以下スマホ）は、本来の電話としての機能のほかに、インターネット、メール、ライン、SNS、カメラ、動画や音楽の鑑賞、メモ帳、財布、ゲームなど様々な使い方ができます。おそらく、まだまだ使いこなしていない機能はたくさんありそうです。海外旅行時に翻訳機として使っている方も見えるかもしれません。昔、ドラえものの便利グッズに「翻訳こんにやく」なるものがありましたが、まさにそれを具現化したと考えることもできそうです。まだまだスマホは進化しそうです。

ただ、これだけ便利だといふ依存してしまいます。われわれの世代はテレビ全盛期であり、テレビのせいで勉強しない、眼が悪くなる、読書をしない、

文化が衰退するとさんざん悪口を言われていたのを覚えています。いまや攻撃のターゲットはスマホです。ながらスマホによる交通事故は大きな社会問題です。入試にスマホを使った巧妙なカンニングの事例も報道されました。スマホに頼りすぎていると万が一無くなった時が大変です。また常に充電の状態や残りのギガ数を気にしなければならず、何かスマホを使っているつもりが逆に振り回されている始末です。今や「スマホ依存症」は深刻です。このような様々な弊害に対して、ある自治体でスマホの使用を一日2時間に限るといった条例が出されたそうです。またオーストラリアでは16歳以下のスマホ使用は禁止です。こういう傾向がどんどん広まるかもしれませんが、公的に規制

されるより、できれば自主的な規制がより望ましいでしょう。

診療現場でもスマホは大活躍です。外来診察時に発作や不随意運動の動画、痣や皮疹の急性期の写真などは大変参考になります。運動療法の補助に簡易的な万歩計としてスマホの活用をお勧めしたりします。コロナ禍で進化を遂げたりリモート診療でも欠かせないデバイスです。病棟でも従来のPHSからスマホへの切り替えが急速にすすむと考えられます。医療DXの重要性がいわれる昨今ですが、当院のような慢性期患者主体のセーフティーネット系の病院においても電子カルテ、タブレット、スマホ、様々なウェアラブルデバイスなどを駆使してより医療の質を向上させていく必要があるそうです。



半世紀ぶりの鈴鹿

小児科 麻生幸三郎

間近となって売店前の道路を同世代の女の子たちが群れをなし演奏会場に向かって地響き立てて駆けていくのを呆然と眺めたこともありました。

思春期の多感な時期に鈴鹿において実質的な人生が始まったともいえるかもしれません。

本来、高専生は5年で卒業し、どこかの会社に就職するのですが、3年生になる前に大学受験を考え始めました。2年生の秋に起きた学園紛争がきっかけでしたが、今思うと、能力的に工学という学問についていけなかったのが一番の原因だった気がします。結局、高専には3年在籍して高校卒業の資格（終了証）を手にし、1年浪人して名古屋大学医学部に入学、その後は医者としての生活のほとんどを愛知県で過ごし、半世紀以上、鈴鹿とは無縁でした。3年間に身につけた伊勢弁もすっかり忘れていました。今回、病棟で立ち働いていて職員の方々の伊勢弁が飛び交っているのを聞いて懐かしさに浸っているところです。

実を言いますと、高専の頃は鈴鹿病院という病院が同じ鈴鹿にあるということも知りませんでした。グラウンドの向こうに見える鈴鹿山脈の途中に小高い丘があることには気づいていましたが、そこが日本武尊の終焉の地だということさえ誰からも聞いたことはありませんでしたし、ましてや、そこに体の不自由な子や神経難病の方を診ている特別な病院があることも知りませんでした。3年間の閉鎖的な学園生活における情報空間というのはそんなものなのでしょう。

しかし、せっかくの機会ですから、今は、もうすこし鈴鹿のことを探索しようと思っています。



夏季筋セミナーについて

令和7年8月19日に鈴鹿病院第一会議室で第14回鈴鹿夏季筋セミナーを行いました。当院では多くの筋疾患の診療を行っており、筋疾患に興味のある先生や筋疾患の知識を深めたい先生のために、毎年8月に本セミナーを開催しています。

今年は、院内から1人、外部から5人（名古屋大学神経内科2人、市立四日市病院研修医1人、トヨタ記念病院脳神経内科1人、名古屋医療センター脳神経内科1人）の先生が参加されました。セミナーの内容は、筋疾患についての総論/各論、呼吸器管理、歩行障害に対するHALの効果、筋病理、遺伝、心筋障害、筋画像についてなどです。それぞれについて当院スタッフが講義を行いました。今回のセミナーを通じて、他院では診る機会の少ない筋疾患について知識を深めていただけたらと思います。

参加された先生からは、実際に勤務先での疑問に思った筋疾患に関する質問もあり、活発な意見交換もできました。今回のセミナーに参加していただいた先生からのフィードバックをもとに、今後さらに本セミナーが有意義なものにできればと思います。

脳神経内科 部長 野田成哉



療育指導室からの お知らせ

各病棟の最近の様子を
ご紹介します！

東1階病棟では、集団療育活動（カラオケやゲーム等）と個別療育活動（お部屋での制作やスヌーズレン等）を行っています。特にカラオケが多くの患者さんに好評です。ダイナーでの活動では多くの患者さんが集まり、賑やかな雰囲気の中で療育を行っています。お部屋での個別療育活動は、一人一人の患者さんに合わせた内容を穏やかな雰囲気の中で実施しています。その他、夏祭りやクリスマス会、豆まきなど季節に応じた活動も行っています。

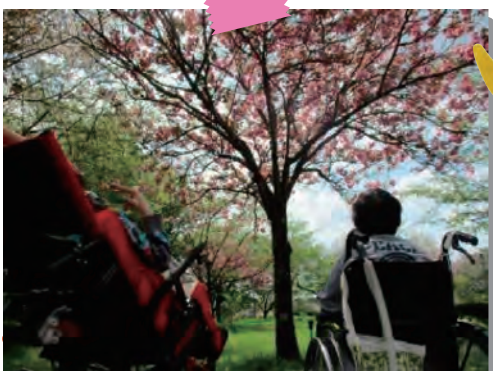
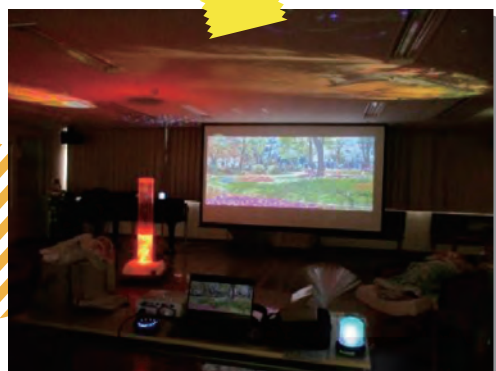
西1病棟でも同様に、集団療育活動（制作 ゲーム カラオケ等）とベッドサイドでの個別療育活動（制作朗読等）を実施しています。文字盤を使用した会話やYESとNOで答えられるやりとりを通して、患者さん

の気持ちに寄り添い笑顔を引き出せるような関わりを大切にしています。最近では、お楽しみ療育活動ですごろくを実施しており、患者さんからは好評をいただいています。

東2階病棟では、ここ数年「還暦」「古希」「喜寿」の御祝いをする患者さんがたくさんおられます。7月にも「古希の御祝」を開催しました。紫の衣装に「???」な表情でキョトンとしていた患者さんが、みんなに「おめでとう」「古希?すごーい!!」と声をかけてもらい、とても素敵な笑顔で応えていました。その姿に、職員は癒されました。これからも、「米寿」「傘寿」「白寿」といっっぱいお祝いしたいですね。

西2階病棟では、お風呂日以外の平日に集団療育活動を実施していま

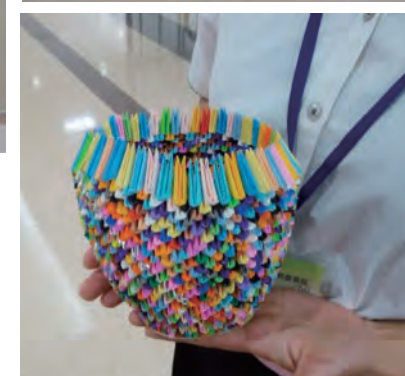
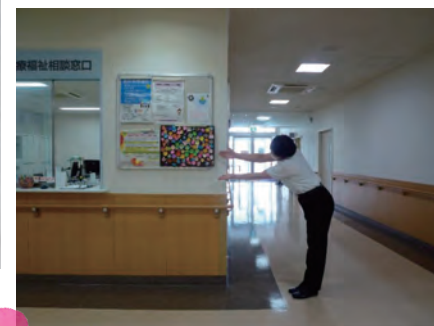
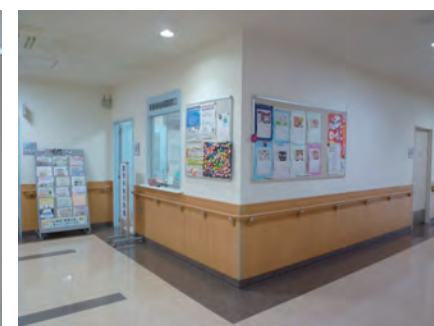
す。そこで制作した制作物や活動の様子の写真は、ご家族や成年後見人に定期的に郵送させていただいております。病棟内でも季節を感じることができるように、最近では秋を感じられる音楽をきいたり、お雛子の動画に合わせて太鼓をたたいたり、鈴を鳴らしたりする活動を通して、音や振動の体験をしています。



地域医療連携室だより

入院患者さんによる折り紙作品や アート作品を展示中です

外来診療棟1階正面玄関横の地域医療連携室前の廊下掲示板には、入院患者さんが心を込めて制作した折り紙作品やアート作品などの各作品を展示しています。お近くへ来られる際にはご覧いただき、センス溢れる世界観を是非お楽しみください。



お問い合わせ

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院 地域医療連携室 医療福祉相談室

電話：059-378-1321(代) FAX：059-379-6670（直通） お問い合わせ時間：平日8:30～17:15

名誉院長の部屋

カニ喰いビトの憂鬱

名誉院長 小長谷 正明

まだ現役の病院長だった頃、秋になって北陸の金沢で将来の医療を担う看護師さんたちの話を聞く機会があった。澆刺とした表情で、ハキハキとした受け答えは頼もしく、未来は君たちのものだとか心の中で激励すると同時に、その若さに羨ましくもなった。そのようなリフレッシュした気分で金沢駅に戻ると、構内に人だかりの出店がある。のぼりに“加能ガニ解禁”とある。覗くと、手足の長いズワイガニだ。加能ガニとは、加賀と能登を組み合わせたローカル・ブランドのようだ。僕の食指が動き、触手が動く。大きなカニを土産に持って帰った。

その後も、金沢に用があるたびにズワイガニを探し、漁解禁前だとガッカリしたものだ。やがて、名誉院長になり、そこでの用事がなくなってからは、若狭は敦賀の魚市場まで独りドライブするようになった。広い市場のどの店にも大きなカニが脚をいっぱいに広げて並んでおり、見るだけでハイになり、食欲が湧いてくる。ここでのブランド名は越前ガニだ。何匹も買い求め、遠方の孫たちにも送ることにしている。

宅配便の住所を書きながら、自分が子どもの頃の情景を思い浮かべる。父が皿いっぱいの茹でたカニを前に、「たのしみはまれに魚烹(に)て 児(こ)等(ら)皆がうまいうましといひて食(く)ふ時」と呟き、家族揃ってワシャワシャと食らいついたことを。カニは差し渡し10センチくらいの甲羅で、茹でると綺麗に赤くなる。丸ガニ、あるいは単にカニとだけ呼んでいたが、調べると、ヒラツメガニというのが正式らしい。小ぶり、漁獲量も少ないので、地元消費だけだそう。ズワイガニでも、小ぶりなメスをセイコガニと呼んで地元で回しているという。

父が口にした「・・・うまいうまし・・・」は幕末の越前の国学者橘曙覧(たちばなあけみ)の連作短歌『独楽吟(どくらくぎん)』の一首だ。この歌集には次のような一首もある、「たのしみは妻(めこ)むつまじくうちつどひ 頭ならべて物をくふ時」。きっと橘曙覧も、まれにはセイコガニを煮て、家族揃って睦まじく食べていたに違いない。

カニやエビの甲殻類は、英語ではShell fishという。40年前、僕が留学していたアメリカ東部の港湾都市ボルチモアには“Crab cakes”や“Soft shell crab”などと、カニ料理レストランの看板が目についたし、フィッシュマーケットには大きなオマール・エビが並んでいた。宗教で禁止のユダヤ人とアレルギー持ち以外は、Shell fishはご馳走の代名詞で、僕も家族そのようなレストランで、妻(めこ)むつまじく、うまいうましと堪能したのはいうまでもない。

“Steam crab・Blue crab”という看板の店もあり、スパイスをふりかけて蒸したワタリガニを量り売りしてい

た。菱形の大きめのカニで、平べったい左右の第5脚をオールのようにして海の中を泳ぐという。綺麗な青いカニだが、スティームすると赤くなる。これが美味しい。肉はたっぷりあってきめ細かく甘みがあり、カニ肝もおつなものだ。日本から後輩が来た時は、フィッシュマーケットでバケツ買いし、蒸しガニにして、ビールでワリワリ・ムシャムシャと喰うたものだ。

最近ある論文で、このカニのことでびっくりし、ブルーになりかけた。大量に食べた人が何人も難病のALSになったというのだ。所は、ボルチモアに近い、海軍兵学校で有名なアナポリス。街が面しているチェサピーク湾はBlue crabの漁場だ。そのカニに、グアム島の神経難病の原因物質と疑われているBMAAが大量に含まれているというのだ。他人事ではない。

グアム島の現地人シャモロ族の間には、ALS・パーキンソンニズム・認知症複合(ALS/PDC)という、神経難病が三つも重なった大変な病気がある。なぜか紀伊半島にも発症地域があり、原因



ズワイガニとセイコガニ(右前)



ブルークラブ

は水や土壌に含まれている重金属だ、遺伝性だ、食べ物だなどと、色々と研究されてきた。

1987年の早春、留学先のメリーランド大学のラボに、恰幅良くて精悍なスペンサーという教授がやってきて、シャモロ族が常食にしていたソテツの根から抽出したBMAAの投与実験の映像を見せてくれた。投与されたカニクイザルの動作は鈍くなり、筋肉は萎縮し、病理学的にもALS/PDCに類似しているという(尚、餌はカニ入りではない)。見事な実験結果に感心したが、日本ではソテツは食べないと反論したところ、勝ち誇ったように笑みを浮かべて、証拠だと蘇轍実と書かれた手書きの漢方の処方を見せてきた。その後も、彼らは紀伊ALSの原因はソテツの漢方薬と書いており、ムカつく。

グアムではシャモロ族では食生活の洋風化してソテツの実を食べなくなり、現在ではコウモリが悪者になっている。ソテツの根に付着しているシアノバクテリウム(藍藻)がBMAAを産生して実に蓄積し、それを食べたオオコウモリの体内で濃縮し、その肉がシャモロ族のご馳走となり、ALS/PDCが発症するのだ。そして、この病気もオオコウ

モリも少なくなっている。その論文では、海中にもシアノバクテリウムがあり、産生したBMAAは魚介類に蓄積し、ブルー・クラブを大量に常食していた漁師に発症したという。カニ喰いザルならぬ、カニ喰いビトだった僕だが、今のところ発症の兆候はない(と思っている)。食べた量が少なかったのか?

僕も、ALS/PDCの患者さんを病理的に確認したことがある。両親の出身地ではないが、三重県内の海辺の多発地域で患者さんが2歳まで勤務しており、兄弟の中には神経疾患の患者さんもいた。漢方薬は服用していなかった。その仮説に従うのなら、幼少時に食べた海産物中のシアノバクテリウム由来のBMAAが原因ということだろうか。

自然界では、このような微生物が作った化学物質を生き物が取り込み、体内で濃縮して毒素となることがある。フグ毒のテトロドトキシンがそう。末梢神経が動かないように作用して、痺れや麻痺を起こし、呼吸筋麻痺で死んでしまう。陸上動物でもこの毒を溜め込むのがいて、イモリの黒焼きを食べてフグ中毒になった論文がある。この黒焼きは媚薬で、惚れた相手への振りかけなので、口にはしない。沖縄のスベマンジュウガニもユーモラスな名前と裏腹に毒ガニだ。捕まえて、蒸し焼きで食べて、フグ中毒死した人がいる。元々は駆虫薬のドウモイ酸という神

経毒は、徳之島でドウモイという海藻から分離されたが、赤潮の原因である珪藻も作る。そして貝や魚、ついには食物連鎖の最上位の動物の体内で高濃度となり、脳の働きを狂わせてしまう。海鳥やアシカが集団異常行動で人襲ったり、痙攣して死んだりする。また、クジラやイルカが浜に上がる現象もドウモイ酸による空間認識障害という。動物だけではない、1987年にはカナダで、ムール貝のドウモイ酸中毒で107人が発症し、4人が亡くなり、重い記憶障害の後遺症が12人に出た。ドウモイ酸は神経伝達物質であるグルタミン酸の関連物質で、これらの症状の説明はつく。そして、あろうことか、アメリカ西海岸のグルメ、アメリカイチョウガニ(Dungeness crab)に高濃度のドウモイ酸が検出され、漁獲が禁止されたという。僕もサンフランシスコで舌鼓を打ったが、幸い、赤潮発生の時期ではなかった。

それぞれに理由はあるのだろうが、自然界には思わぬ有毒物質が潜んでいる。それも、美味しいものに多い。カニ喰いビトには憂鬱な話だ。ともあれ、通ぶっていかもの喰いしたり、大量に喰い漁りしない方が良い。タイでカブトガニを食べて死ぬ思いをした人がいる。テトロドトキシンだ。

注、BMAA: β -メチル・アミノ・アラニン



■ 外来診察担当表 (2025年10月1日現在)

	月	火	水	木	金
脳 神 経 内 科	南 山	小 長 谷	久 留	小 長 谷	久 留
	野 田	酒 井		木 村	
内 科	野 口	田 中 滋	牧 江	落 合	
		落 合			
小 児 科		予約 (村田)			予約 (村田)
整 形 外 科		田 中 信			田 中 信
		(装具外来)			
リハビリテーション科	担 当 医	田 中 信	担 当 医	田 中 信	田 中 信
皮 膚 科		室 (午 前)			
歯 科	永 田 (午前)	北 村 (午後)		永 田 (午後)	
禁 煙 外 来	野 口 (予約)			落 合 (予約)	
循 環 器 科					喜多田 (午前)
耳 鼻 科				平田 (第2午後)	
				藤田 (第4午後)	
消 化 器 科			内科 平野 (第2午後)		
			外科 渡邊 (第2午後)		

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします (あらかじめ電話予約のうえお越しください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

■ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩15分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車15分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



編集後記

だんだんと日が短くなり、過ごしやすい気温になってきました。季節の変わり目ですので、体調にお気をつけて、元気にたのしい秋をお過ごしください。

庶務係 荒木 優茉

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号 Tel 059-378-1321代 Fax 059-378-7083 <https://suzuka.hosp.go.jp>

令和7年10月発行